

## パブのはなし

ロンドンの街を歩いていると、通りという通りと言ってよいほど多くのパブに出会います。天気の良い日には、昼休みや夕方仕事を終えた後に、店の表にまで溢れるほどの人がビールやワインのグラスを片手に談笑しています。私が以前住んでいたサウスケンジントンのアパート（フラットと言われます。）の裏にもパブがありましたが、寝室が裏通りに面していることもあって、閉店に近い11時頃にベッドに入ると窓外からいかにも楽しそうな話し声が耳に入り、ついついベッドを抜け出して出かけたくなるほどでした。

パブは、パブリックハウスとかフリーハウスとか言われる誰もが自由に出入りできるイギリス人の手軽な社交場です。店に入ると、中央にカウンターがあり、テーブルや椅子はといえば窓際の壁にはりつくようにして置かれているのが普通です。座って飲む人ももちろんいますが、やはりパブらしいところは、カウンターに肘をつきながらとか、入口のまわりにたむろして飲んでいる風景でしょう。

パブに出入りする人々は、もちろん場所によって様々ですが、ペンキの付いた背広を着た労務者風の人々やノート類を抱えた学生から、ネクタイ姿のサラリーマン、さらにはパーティーやコンサートなどの行きや帰りに立ち寄ったのでしょうか、ブラックタイと呼ばれる蝶ネクタイ姿の紳士まで様々です。昔は同じパブでも労務者と上流階層では入口や飲む場所が別だったそうですが、今では昔の名残を留めているだけです。国会議員（MPと言います。）をパブで見かけることもめずらしくあり

ません。

パブでは普通、昼食の時間には軽食を提供してくれます。ビーフシチュウをパイ皮で包んで焼いたようなステーキパイやキドニーパイ、挽肉の上にマッシュドポテトを乗せて焼いたシェファーズパイ、挽肉と豆とを煮込んだチリコンカー、それにソーセージやサンドイッチ等が1ポンド50ペンスから2ポンド50ペンス位でした（1988年当時）。ビターと呼ばれるビールが半パイント（牛乳瓶1本より多少少ない程度）で50ペンス、1パイントでも90ペンス位でしたから2～3ポンドあれば昼食が十分食べられます。これはロンドンで最も安上がりと言われるサンドイッチバーでサンドイッチを2つ注文して食べるのとほぼ同じか多少高い程度ですから、温かい食事でしかもビールもついていることを考えると正にお買い得（Value for Money）です。普通のレストランに行けば、最低7～10ポンドは覚悟しなければならないでしょう。ちょっとしたパブになると階上や奥のほうにレストランが別に設けられているものもありますが、これは普通のレストランと同じで高い。チップのことも考えなければなりません。

ロンドンはシティと呼ばれる金融街やピカデリーを中心とする観光・商業地域を除いて、大体が表通りを一步入れば何処もフラットが続いていますので、パブの入口には普通、「ご近所の迷惑にならないようお行儀良く飲んでください。」とか、「パブの外へはグラスを持ち出さないでください。」といった掲示が貼ってあります。でもこれは一つの

総務庁統計局統計基準部 統計審査官 渡辺秀一  
(1985～1988年 在英日本大使館勤務)

エキスキューズに過ぎないでしょう。大体の場合、外で飲むことは当たり前ですし、けっこう大きな声で話したりしています。

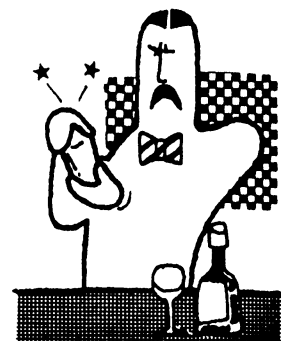
それでも感心するのは、閉店時間の11時を過ぎると騒ぎがピタッと止むことです。パブの営業時間は夜11時までと決まっています、閉店近くになると店内放送や鈴の音でラストオーダーを知らせます。酒を飲んでいるときには何とも味気ない無粋なアナウンスですが、またどれほど客を帰らすのに効目があるか分かりませんが、何れにしても閉店を過ぎると潮が引くように客が去っていくあの行儀の良さは新鮮に映ります。

パブは大人の世界です。子供は入れません。いつか私の子供がトイレに行きたくなくて傍のパブに飛び込み、飲みたくもないのに半パイントのビターを注文したにもかかわらず、子供はトイレを利用できませんでした。きっと店員さんは余程法律遵守精神が強かったのでしょう。

それでも、街中を離れ、テムズ河の河畔や郊外のパブに出かけると話は別です。河畔のパブは普通、表にテーブルが用意してあり、そこでは家族連れで飲物や食事をとることができます。もちろん中のトイレも使えます。また、郊外のパブになると、一角が家族用に開放されています。この場合でもカウンターの傍には「お子様はご遠慮ください。」と言う掲示があります。これは一つには、やはり郊外になるとレストランが少なく、家族連れの外食の場所が限られてくることにもよるのでしょう。

郊外のパブでご紹介したいのは、街道沿いにあるイン(はたご)です。これは一階がパブやレストランになっており、階上は客室になっています。郊外に泊り掛けでドライブに出かけるときは、ホテルや民宿の予約なしで行くことが多く、また走りながら簡単に見つけることができるので、しばしば利用しました。街中のホテルより安いので経済的でもあります。こうしたインのパブは、夜になると地元の人々が集まってきて賑やかになり、観光ガイドよりも役に立つ情報が得られることもしばしばです。何よりも、いくら飲んでも階段が上がって寝るだけですので飲酒運転の心配がないのが魅力です。

パブはオアシスとっては言い過ぎかもしれませんが、これだけ多くのパブが街中や郊外のあちこちに昔ながらの姿で続いているという光景は、イギリスの文化や日常生活との関わりの深さを思わせます。多くのパブは、ロンドン塔やビッグベンよりもイギリスらしさを感じさせます。



## 統計グラフコンクールで日本一

——平成5年度茨城県統計グラフコンクール——

第44回茨城県統計グラフコンクールは、応募作品10,301点、応募者22,298人という多くの方々の参加を頂きました。

作品の傾向としては、本県は従来から紺系統の寒色を基調にした作品が多かったのですが、本年度の作品を見ると色々な手法を駆使し、全体のイメージが明るいものが多く見られました。

また、テーマの選択についても、小学生低学年は、学校のことや家族のこと、それに今、人気のJリーグなど身近な素材を選んだものが多く、高学年になると米の自由化や学校週5日制、勉強のことなど、中学生では、老人問題、喫煙問題、悩みの問題などマスコミからの情報等を活用して社会の事象を適切にとらえてまとめています。

審査は、県内5地区において地区審査員により地区別審査がまず行われ、作品466点が選ばれました。これらの作品について最終審査は、9月16・17日の両日、大子町「やみぞ」において県審査員9名により厳正に行われ、知事賞5点、県議会議長賞5点等入賞作品82点が最終的に選ばれ、このうち特に優秀な作品22点については、全国コンクールに出品しました。

これらの入賞者については、11月30日(火)県民文化センターにおいて開催される第35回茨城県統計大会の席上で表彰が行われ、賞状と副賞品が贈られます。

なお、これら入賞作品については、12月22日から26日までの5日間、水戸駅前川又書店において展示し、一般の皆様方にご覧頂きます。その後、各小・中学校を巡回展示する予定になっています。

第41回統計グラフ全国コンクールについて述べ



県審査会

ますと、全国で62,805点の応募作品があり、このうち各県から中央審査に出品された830点について、10月6日(水)に審査会が行われました。

この結果、本県出品作品から14点が入賞し、うち小学生と中学生の作品2点が全国特選(中学生の部、パソコン統計グラフの部)に輝き、本県の統計グラフの作成活動はここ数年間、質・量とも全国のトップレベルを維持し「統計茨城」の名にふさわしい結果であるといえます。

特選の表彰については、11月10日(水)に山形県上山市の上市市体育文化センターにおいて開催される第44回全国統計大会の席上、八郷町立園部中学校3年・山田ふみ江さんが第3部(中学生)の全国代表として、協和町立新治小学校6年・篠崎真佐美さん・田崎由美子さん・藤川弘美さんがパソコン統計グラフの部の全国代表として受賞いたします。

次に、県知事賞受賞作品及び本県の全国コンクール特選受賞作品を紹介します。

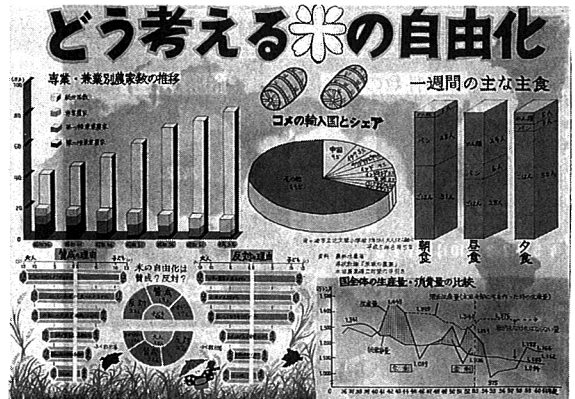
(統計課・普及指導グループ)



〈1部〉 知事賞・全国入選

岩井市立岩井第一小学校2年

宮部ちあき・飯島佳奈・関根 忍・  
大久保香織・風見杏奈



〈2部〉 知事賞・全国佳作

竜ヶ崎市立北文間小学校5年

岡田 理沙・飯田 祥代



〈3部〉 知事賞・全国入選

大和村立大和中学校3年

つくだきゆり  
小山あゆみ・鈴木しのぶ・附田小百合



〈5部〉 知事賞・全国入選

水戸市千波町418-6

川 上 洋 一

